

今回は、「鹿っ子マルシェ」の活動報告です。



## ◇ 本町BASE、道の駅古今伝授の里やまとでマルシェにチャレンジしました！

- 3月18日(土) 本町BASE (関市本町6-4-1)
- 3月19日(日) 道の駅 古今伝授の里やまと (郡上市大和町剣164)



郡上味噌とスパイスで味付けした「鹿っ子ミンチ」は、コロケ、チャーハン、餃子、ハンバーグ、カレー、チジミ、野菜炒めなど、幅広いメニューに活用できます。今回のマルシェでは、高校生としょうりゅうが共同開発した「鹿っ子そばろ丼」を提供しました。「鹿っ子ミンチ」(冷凍)は、現在、道の駅「古今伝授の里やまと」「美並」で販売しています。

右写真は、イベント直前、尾関健治関市長さんの立ち合いのもとで開かれた試食会の様子です。

## ◇ 鹿っ子プロジェクトメンバーの感想

今回、鹿っ子プロジェクトの活動を通して、たくさんのことを学びました。この活動は、秋からの短期の活動でした。その中で、1回1回の話し合いを大切に、理想に近づけられるよう頑張りました。時にはお互いの意見がすれ違い、なかなか話し合いがまとまらない時もありましたが、学校で何度も話し合い、試行錯誤して、よりよいものにすることができました。私は仲間や周りの大人に意見を伝えることが苦手でしたが、理想のために成長することができました。また、この活動を通して深く地元について考えるようになりました。私たちは商品開発に郡上で駆除された鹿を使いましたが、それによって郡上の鹿の駆除の現状について知ることができ、地元の問題の解決の手助けができてとても嬉しいです。また鹿肉などのジビエを使うことで、環境問題や食品ロス、食料自給率の問題にもアプローチすることができました。このように、地元の問題からどんどん視野を広げることができ、とてもいい経験になりました。そして、実際に販売をしてみて、たくさんの方が「美味しかったよ」と言ってくれて本当に嬉しかったです。地元の人や学校の子がたくさん来てくれて、頑張ってたかったと思いました。この活動を通して、人として大きく成長できました。後輩にやりたい子がいたら、ぜひ引き継いで頑張ってください。(瀨瀨陽向)



食品ロスをなくすために「商品開発をする」という言葉に興味を湧いたので参加した。

話し合いをして、改めて食品を無駄なく使うことの大切さや、小さなことでも無駄を少なくすることに繋がることを学んだ。この話し合いで捨てられてしまう食材からジビエのこと



が話題になり、商品はジビエを使って作るようになった。鹿が、害獣として駆除されることは知っていたが、猟師たちが全て残さず食べているのだと勝手に思っていた。「ジビエ」という今まで関わることの無かった世界に入り、食品ロスと繋げて商品開発するという滅多にない経験ができて本当に嬉しい。商品開発では、より良い物にするために積極的に意見を言うことを心がけた。

ジビエについて興味も湧いたので、伊深町にある「いぶカフェ」で鹿肉のハム、鹿ミンチ100%のハンバーグ、子鹿のスペアリブといったジビエ料理を食べて、ジビエの美味さを知り、ジビエが好きになった。こんな感じで今回の鹿っ子ミンチを食べて、多くの人がジビエを好きになってくれたら良いと思う。思えばあっという間に商品ができて、販売に至った。たくさんの人に

来ってもらうため、SNSで宣伝して友達に広めたり、母に協力してもらって母の職場の方にも宣伝したが、もっとたくさんの人に宣伝すれば良かった。例えば、中学校の先生に伝えて、先生間や中学生の子たちにも宣伝するなど、していれば、鹿っ子プロジェクトをもっと広めることができただろう。

1日目は雨のせいもあり、ミンチを完売することはできなかったが、来てくださった方には、そばろ井を通してジビエの美味しさを知ってもらえたと思う。今回の活動で、ジビエについて学んだだけでなく、プレゼンの仕方や宣伝のポスターなど、人に伝えるための方法も学んだ。このことは、今後何かに関わって活動する時にも役に立つので、今後も様々な活動に積極的に携わって経験を活かしていきたい。(大竹諒)

私は今回の活動で初めてジビエの現状について知って、自分が思っていたよりずっと多くの鹿が駆除されて廃棄されていると知ってとても驚いたし、その肉を使った商品がすでにあることも初めて知った。そして、今まで気にしていなかったジビエに関心を持つことが出来た。商品開発において、私たちは主にアイデアを出すだけだったけど、それをどうにか形にしようとしてくれる大人の方々をみて、商品を開発して販売する大変さを知った。

実際に郡上で販売して、みてもっとたくさん宣伝をしておいた方がよかったなど、たくさんの課題が見つかったけど、お客さんが購入して美味しいと言ってくれる嬉しさや接客の仕方、協力してくださる方々のありがたさを学ぶことができた。(藤城佳那)



今回の活動を通して、まず問題として駆除された鹿肉が至るところで食べられきれいなというのを初めて知りました。私自身ジビエを食べたことがなかったのでこの活動で初めて食べたし、初めてジビエについて考え始めました。商品開発では自分たちの意見をなるべく反映させた上で実際に形にできることは限られているので、その折り合いをつけるところに苦労しましたが、自信を持って美味しいと言える商品に仕上がったと思います。また、初めて販売をしてみても興味を持ってくださるお客さんや美味しかったよと喜んでくださるお客さんを目の前で感じて、やって良かったと改めて感じましたし、貴重な体験をすることが出来ました。



自分たちの思いを込めた世界で一つだけの商品を作れて最高の思い出を作ることが出来ました。ありがとうございました。(二村真央)



駆除された鹿の多くが廃棄されていると知ったときに受けたショックと、「こんなにおいしい」そして「環境にも負荷が少ない」「とてもヘルシー」な鹿肉の良さをみんなに知ってもらいたい！普及させたらな...と思ったことを今でも覚えています。

最初はそんな気持ちだけで、知らないこともたくさんあって、ビジネスの難しさも感じました。しかし、多くの人の協力で鹿肉を使った商品開発が実現できたことはとても有難いことだと思います。パッケージのデザインは、いろんな人の意見を聞いたり、手に取ってもらいやすいように買い手の視点で考えたりしたけど、初めてのことでばかりでとても大変でした。また、知り合いの方から鹿肉をたくさんいただいた時に部活の子などに食べてもらって、おいしいと言ってくれた子がとても多かったのでも鹿肉のおいしさを知ってもらえて嬉しかったし、若い人は鹿

肉を抵抗なく食べてくれる人が多いのではないかと思います。

イベントの成果としては、初めて鹿肉を食べておいしいといただく方がいたことです。そういう人がこれからジビエに興味を持ってまた食べたいと思えるきっかけになってほしいです。反省点は主に2つあります。1つ目は、集客で多くの人の興味を引くようなアピールが工夫し切れなかったことです。前もって声かけの内容をいくつか考えておくべきでした。2つ目は、チラシ配りでの鹿肉の良さを十分に出来なかったことです。道の駅だと他にも売店がたくさんあるから、鹿っ子そば丼を買わない人にももっと積極的にチラシを配って、より多くの人に興味を持ってもらえるようにできたのではないかと思います。また、渡すだけでなく、鹿の駆除の現状や鹿肉の良さをコンパクトに伝えるセリフも考えておけば良かったです。

この活動を通して、発表やパワポ作り、チラシ作りなど、「人に伝える」方法をたくさん考えました。人に何かを伝えることはとても難しいけれど、変化を起こせるとやりがいを感じられるし、人との出会いが生まれることもあっていいなと思いました。また、私は食糧の流通にも興味があるので、このような商品開発に携われて良かったです。まだまだジビエの利活用は課題があるけど、まずは認知度をあげていって、廃棄される動物が限りなく少ない社会をつくっていきたいです。（酒向都安）



ジビエに関する知識も何もない中で始まりましたが、自分なりに精一杯頑張れたと思っています。初めてのことでばかりで、わからないことも知らないこともたくさんあったけれど、こんな活動ができて本当に良かったと思います。商品を作っていく過程、そして販売にいたるまで、テストと被ったりして大変だと感じることもあったけどとても楽しかったし、やりがいを感じました。しかし、パッケージ決めに一悶着あったりして、もう少しはやく行動を起こすべきだったと思うこともありました。また、販売当日、声掛けや対応が試行錯誤な部分もあり、もう少し、みんなと確認しておくべきだったと思いました。特に声掛けに関しては、言葉を選び端的に伝えることの大事さとか、いろんなことを知れたと思うし、もっと改善できたと思います。そこは、主な反省点です。でも「美味しかったよ」と声をかけてくれるお客様もいて、本当に嬉しかったです。

多くの方の協力もありましたが、最終的にしかっこそば丼は完売することができ、嬉しかったです。しかし、販売をやって出てきた課題も沢山あります。この反省を生かし、もっと入念に準備をして、もう一度、販売をする機会があればと思います。全体を通して、本当に貴重な経験をさせていただきました。大変だったけれど、とても楽しかったです。この活動を通して、少しでも鹿含むジビエに興味を持ってくれたら、この活動を知ってくれたら、

と思います。ジビエの現状を少しでも変えていけたら嬉しいです。

わからないことしかない中、しょうりゅうの本田さんをはじめ、たくさんの方にサポートしていただき、本当に感謝しかありません。この経験は、きっといろんな場面で活かすことができると思います。このプロジェクトに参加できて本当に良かったです。本当に、ありがとうございました。（後藤はるか）

鹿っ子プロジェクトを通して貴重な経験がたくさんできました。私は、駆除されたのに捨てられる鹿を利用しておいしく食品ロスを減らしたいという思いで自分なりに一生懸命活動してきました。

一番嬉しかったことは、みんなで真剣に話し合い、たくさんの方々力を借りながら1つの商品を作り上げることができたことです。知識が足りず話し合いに充分貢献できないことがあったり、販売当日は至らぬ点多々あったりしましたが、実際に商品を購入した方から「おいしかったよ」と声をかけられた時、活動をしてきて良かったと思うことができました。しかし、ジビエというものにまだまだ抵抗がある人もいるように思えました。今回の商品は本当に鹿の良さだけを出せるよう味付けがしてあったのでクセもほとんどありませんでした。このことを抵抗のある人に伝えて「ジビエを食べてみよう」という一歩を作り出せなかった部分もあったと思います。人に何かを伝えるということの難しさを感じました。課題も残りましたが、私たちの活動を通して1人でも多くの方がジビエへの抵抗をなくし、「鹿肉っておいしいんだ!」と感じてもらえていたらと思います。

改めてこのプロジェクトを通して、商品を企画して実際に自分たちの手で販売するということは普通の高校生活ではできないことであり、貴重な経験をすることができて良かったと思います。また、活動を通して自分を成長させることができました。今までの自分なら「私には向いていない」と考えてこのプロジェクトに参加していなかったらと思うと思います。様々な面で貴重な体験ができ、今は心から参加して良かったと感じています。だからこのプロジェクトに携わったすべての方々に感謝しています。（須田怜結奈）

#### ◇ スタッフの皆さんの感想

◆ 一人ひとりの優しさや思いやりが、鹿っ子ミンチをつくりあげたと思います。とっても楽しく仕事をすることができました。ここからさらに鹿っ子プロジェクトを躍進させていけるよう繋げていけたらいいと思います。みんなに感謝です。

（中華料理しょうりゅう 本田昇司さん）

◆ このプロジェクトは、「鳥獣被害をなんとかしたい」という高校生の想いに、地域の大人たちが、それぞれの得意分野で協賛することで実現しています。関高校は進学校なので、多くの学生が大学に進学しますが、近年はこういった学びの場にも力を入れています。地域の課題に関心を持ち、周りの人たちと協力してアイデアをかたちにして、収支計算も行って、実際にお客さんに伝えて売る。学校の授業や偏差値には決して表れない部分だけど、大人になって働いていく上で、本当に大切なことがたくさん詰まっていると思います。

それどころか、こういった活動をすることで、自分が進む道が見つかって、さらに勉強や授業を自分ごととして頑張る子もきっと出てくるはず。本当に素晴らしい活動だと思うので、僕も引き続き微力ながらサポートさせていただきます。

（一般社団法人オンラインプレゼンテーション協会 宇佐見将太さん）

